

「大切な物をくれた地震」

阪之上小学校 川上 あずみ

去年の十月二十三日は、「新潟県中越地震」が起こった日だ。中越地方を中心として、川口町に、震度七という最大の震度がかん倒された。ここ長岡市では、震度六弱の地震がおそった。私は、地震の日のでき事を一つ一つ細くおぼえている。そして、地震がおきたしゅんかんの光景がまだ目にやきついている。どんなにこわかったか……。あの時は「もう

だめかもしれない」と思ったくらいだ。でも、川口の人たちは、もつとこわかったと思う。震度7の地震がくるなんて、たれに予想できなかったろうか？ふつうの生活をしていたら、いきなり足もとか大きくゆれた。そんなこわい思いをした人が、何十万人もいる。そしてこの地震の死者は、今までで五十一人もいる。負傷者も千八百人をこえる。そんな「新潟県中越地震」で、山古志小学校の子が阪之上小学校に来た。地震のおかげで友達がふえた。

でもそのかわり地震のせいでその友達は大
きなある物をうしなっただと思う。お金では買
えないある物を……。そんな地震か。私はに
くくっしようがない。でも地震をにくんでも
しようがない。今の事を考えなくては……。
そう気付いた。

私は地震でとても大切な事が分かった。電
気がつくなかで、温かいごはんが食べられる
事、そして何よりも自分の家が大好きな家族
と、いっしょにすごせる幸せさを。

地震は、私たちを、とても悲しく、こわい
物にさせた。でも地震は私たちに、今までに
はなかつた、大切な物を気づかせてくれた。
だから私は、今を楽しんで、一日一日を大切
に生きよう……。そう思った。